

校番	51	学校名	広島県立安古市高等学校	校長氏名	船津久美	全日制	本校
----	----	-----	-------------	------	------	-----	----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

校訓「仰高」の精神のもと、広島を愛し、グローバル社会に貢献できるリーダーを育成する。

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

- (1) 高い志を掲げ、生涯にわたり学び続ける意欲を持った生徒を育てる学校。
- (2) 安古市高校の一員としての自覚と誇りを持って、自分で考え行動できる生徒を育てる学校。
- (3) 異なる価値観を持った人と協働して、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる学校。

3 環境分析

(1) SWOT 分析

外部環境 内部環境	③ 強み (S)	⑥ 弱み (W)
	<ul style="list-style-type: none"> 1 「がんばることがかっこいい」という学校文化 2 成功体験に支えられた進路指導及び高度な教科指導のできる幅広い力を備えた教職員 3 ユネスコスクール、文部科学省委託事業「サステイナブルスクール」や「人権教育研究校」としての評価 	<ul style="list-style-type: none"> 1 課題を発見したり、目標を設定したりするなどの主体性が十分に育っていない生徒 2 最難関国立大学に対する指導方法の共有と継承の不備 3 地域、社会（国内外）とつながる機会の不足
	① 機会 (O)	④
<ul style="list-style-type: none"> 1 協力的なPTA・同窓会 2 小学校・中学校、地域等から寄せられる信頼及び期待感 3 学校が広島市内に位置し、近隣に大学が複数あるという文化的刺激を受けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 1 主体的な学習と生徒会活動・部活動を両立できる授業と課題の設定 2 総合的な学習の時間「仰高ゼミ」を中心とした学習意欲を引き出す教育課程の編成 3 PTAと同窓会、地域とのパートナーシップを基盤にしたキャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 1 生徒の主体的な行動を育成するための仕掛け作りとそれを見守る体制 2 入試問題研究をはじめとする高いレベルの学習指導に加えて、新しい入試にも対応できる学習指導の研修と蓄積 3 大学等の主催する文化的行事への参加 4 地域の実情に目を向けボランティア活動にもつなげられる生徒の育成
② 脅威 (T)	⑤	⑧
<ul style="list-style-type: none"> 1 広島市内への中学生上位層の流出 2 志望進路として地元志向の強い保護者（子どもが挑戦することを促すことが難しい傾向を持つ） 	<ul style="list-style-type: none"> 1 安古市にしかない特色をわかりやすく示す広報活動 2 世界に貢献できる資質・能力を生徒が持っていることを保護者に伝える場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 1 総合的な学習の時間「仰高ゼミ」を核にして、現代社会の諸課題への意識喚起とそれに対応できる教育課程の編成と授業実践 2 全ての教職員が、本校のあるべき姿を自由に意見し、話し合える場の創造

(2) 戦略(中間目標)の決定

- (1) 高い志を掲げ、生涯にわたり学び続ける意欲を持った生徒を育てる。
- (2) 安古市高校の一員としての自覚と誇りを持って、自分で考え行動できる生徒を育てる。
- (3) 異なる価値観を持った人と協働して、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。

4 目標の設定

学校経営目標							
達成目標	評価指標	実績値		目標値		担当部等	
		平成 29 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
1 高い志を掲げ、生涯にわたり学び続ける意欲を持った生徒を育てる。							
3年間の系統的・組織的な進路指導計画に従い、生徒自身に明確なキャリアプランを描かせ、意欲的にその実現に向かわせる。	センター試験全国平均点に対する本校平均点比 108 以上の科目数 (17 科目中)	9	12	13	14	進路指導 企画研修 各学年 各教科	
	国公立大学合格者数	216	220	225	230		
	難関大学と広島大学合格者数	66	60	65	70		
授業に積極的に取り組み、学び続ける意欲を持った生徒を育てる。	授業アンケートで、授業後に興味・関心が高まった項目の生徒の評価の平均値(4点満点)	3.2	3.2	3.2	3.2	教務 各教科	
	全国模試最終の平均点偏差値	1年 3教科 総合	58.7	60	60	60	各学年 進路指導 各教科
		2年 5教科 総合	58.7	60	60	60	
2 安古市高校の一員としての自覚と誇りを持って、自分で考え行動できる生徒を育てる。							
自律的な生活習慣を確立し、自己統制力の働く社会性を備えた生徒を育てる。	達成目標に関する行動目標を生徒主体で設定し、達成度を自己評価させる。(100点満点)	68.2	75	80	85	生徒指導 特別活動 推進 各学年	
	1年間を通じて無欠席、無遅刻、無早退であった生徒の人数	249	280	285	290		
生徒の自主的な活動を活性化し、自身や他に誇れる成果の実現を目指す。	中国大会等以上出場または受賞件数	6	12	13	14	特別活動 推進 各クラブ	
	部活動加入率	92.4%	90%	90%	90%		
3 異なる価値観を持った人と協働して、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。							
総合的な学習の時間「仰高ゼミ」を核にして、生徒の現代社会の諸課題への意識を喚起する。	仰高ゼミ振り返り自己評価の平均値(4点満点)	3.1	3.4	3.2	3.2	企画研修 各教科	
中学校との連携を深めるとともに、時宜を得た広報活動によって安古市高校の魅力をアピールする。	中学生対象学校説明会アンケートで全体的な評価で「大変よく分かった」と答えた割合	77%	76%	78%	80%	総務 特別活動 推進	
	学校の取組を積極的に普及した教員の割合	60%	—	60%	70%	管理職	
教職員が「持続可能な社会の担い手」として、生徒のロールモデルになる。	定時退校日に正規の勤務時間終了時刻から30分以内に退校した教職員の割合	—	—	—	90%	管理職	

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 高い志を掲げ、生涯にわたり学び続ける意欲を持った生徒を育てる。			
3年間の系統的・組織的な進路指導計画に従い、生徒自身に明確なキャリアプランを描かせ、意欲的にその実現に向かわせる。	<p>系統的・組織的な進路指導計画を作成し、各生徒の目標や希望に応じた進路実現を図る。</p> <p>ア 学力層・進路希望に応じた補習の計画的実施</p> <p>イ 生徒の学力や進路希望に応じた大学受験方法の指導</p> <p>ウ AO・推薦・全入試対策個別指導の充実</p> <p> a 入試問題の分析・研究</p> <p> b 小論文・面接・実技対策指導の充実</p> <p> c 第一学年からの表現指導（仰高ゼミ）</p> <p>エ 進路希望・学習実態調査の実施</p> <p>オ 進路判定に関する基準の構築と共有化</p> <p> a 進路検討会議（3年 3回） （2年 2回, 1年 1回）</p> <p> b 進路研修会（外部講師を招いての研修・各種模試結果・各学年進路検討会議報告等）</p>	<p>すべての教職員が生徒の学力状況と進路目標の適合性を的確に判断できる。</p> <p>生徒に応じた進路指導が学年会を通して行われ、生徒の目標と実際の出願との乖離が減少する。</p> <p>入試問題研究、教材・教具の工夫・改善を通して教職員の入試対応力を高め、最難関大学指導により複数の合格者を継続的に輩出する。</p> <p>生徒が論理的な思考・表現力を必然として身に付け、論述問題への対応力を備え、広島大学や難関国公立大学への合格者数が増加する。</p>	進路指導 企画研修 各学年 各教科
授業に積極的に取り組み、学び続ける意欲を持った生徒を育てる。	<p>ア 各教科において生徒に身に付けさせたい資質・能力を育むための「主体的な学び」を促す授業作りを推進する。授業改善アンケート（年間2回）を実施し、個人・教科・全体で中間評価・年度末評価に対する分析を行う。中間段階では教員間の公開研究授業、互見授業を通じて分析の成果を発表する。</p>	<p>授業づくりのPDCAサイクルを教科マネジメントに基づいて進め、教職員の授業力を向上させる。</p>	教務 各教科
2 安古市高校の一員としての自覚と誇りを持って、自分で考え行動できる生徒を育てる。			
自律的な生活習慣を確立し、自己統制力の働く社会性を備えた生徒を育てる。	<p>ア 安全・安心を意識して、気づく、考える、動く。 登下校の安全、心身の健康を保つことに関して、どうした方が良いか、どうしない方が良いかを、自ら気づき、考え、行動できる力を身に付けさせる。 ・交通安全指導 ・情報モラル指導 ・薬物防止指導 ・防犯に関する指導</p> <p>イ ルールを意識して、気づく、考える、動く。 法令・法規・校則の意図を理解し、それを自主的に守る姿勢を養い、卒業後の社会に適応し、良いモデルとなる人材を育成する。 ・頭髪服装指導 ・遅刻指導 ・携帯スマホ指導 ・ルール指導</p> <p>ウ マナーを意識して、気づく、考える、動く。 心を込めた挨拶ができる、時間を守る、物を大切に管理するなど、自分のことだけでなく、相手の立場に立った行動ができているかを、振り返り、常に改善していこうとする力を身に付けさせる。 ・挨拶指導 ・生徒会との連携 ・マナー指導</p>	<p>自他の生命を大切にすることを念頭に、守られているということへの感謝から、自制する必要性に気づき、その力を身に付け、他を守ることで、守られてきたことへの恩返しをしていく姿勢を身に付けさせる。</p> <p>高校生の自分という立場から、地域人・社会人としての自分という立場へ視点を広げ、それぞれの場へ適応する中で、社会に貢献できる自らの進路を切り開く力を身に付けさせる。</p> <p>自分の立場からだけでなく、相手の立場に立ったコミュニケーションがとれる力、現在だけでなく、過去や未来から物事を考える力、今いる場所だけでなく、グローバルに物事をとらえる力を身に付けさせる。また、今できていること、できていないことをチームとして振り返り、改善していく力を身に付けさせる。</p>	生徒指導 特別活動推進 各学年
生徒の自主的な活動を活性化し、自身や他に誇れる成果の実現を目指す。	<p>ア 執行部活動を通して生徒会執行部生徒のリーダーシップを養う。</p> <p>イ 各種委員会の活性化を図ると共に、生徒会行事や生徒会活動への生徒一人ひとりの意識を高め、自主的・積極的な参加を促す。</p>	<p>生徒会執行部を生徒会活動の核として機能させ、各種委員会活動等を通して生徒会行事への全校生徒の意識を高め、自主的・積極的な参加を促す。また、部活動の活性化や社会貢献活動の推進に引き続き取り組む。</p>	特別活動推進 各クラブ

3 異なる価値観を持った人と協働して、持続可能な社会の担い手となる生徒を育てる。

<p>総合的な学習の時間「仰高ゼミ」を核にして、生徒の現代社会の課題への意識を喚起する。</p>	<p>ア 3年間を見通したカリキュラムを作成し、単元ごとにパフォーマンス課題を設定する。 イ 担当部署・学年会での内容の協議・共有・改善にかかるPDCAサイクルを構築する。 ウ 生徒主体の授業展開とするため、担当教員はファシリテーターとしての役割を重視する。 エ 教科活動・特別活動と連携し、探究活動の深化を図る。 オ 生徒・教職員がESDの観点を共有して総合学習を進める。</p>	<p>各単元の学習プログラムに、協働的な学びを促すパフォーマンス課題を設定するとともに、主体的・対話的で深い学びとなるプログラムとなるように、単元毎のフィードバックを行う。 各単元において教科・特別活動との関連を考慮し、相互作用的に学びが深まるような連携を行う。 SDGsの学習等を通してESDの観点を共有した上で、学習を進める。</p>	<p>企画研修 教務 各教科</p>
<p>中学校との連携を深めるとともに、時宜を得た広報活動によって安古市高校の魅力をアピールする。</p>	<p>ア 定期的な中学校訪問を実施し、各中学校との連携を深める。(5月, 3月, 適宜) イ 中学校での出前授業等を通じて、本校への理解を深める。(6月) ウ 中学3年生を対象とした学校説明会を実施する。(7月) エ 中学2年生を対象とした学校説明会を実施する。(12月) オ Web ページを活かし、本校の魅力の発信を図る。 カ 地域の方々に日常的な教育活動を見てもらう機会を提供する。 キ 小学校及び中学校を含む他校に本校の教育活動をアピールする。</p>	<p>選抜Ⅰの志願倍率は2倍、選抜Ⅱは1.2倍を超えるとともに、学校不適應による休転退学者を減少させる。</p>	<p>総務 特別活動推進</p>
<p>教職員が「持続可能な社会の担い手」として、生徒のロールモデルになる。</p>	<p>ア 計画的で有効な時間の活用方法について、教職員で意見交換する。 イ 「職員朝礼連絡事項」の内容について、周知徹底を図る。</p>	<p>時間管理の効果的な方法について、教職員で共有する。</p>	<p>管理職</p>